



INDEX

- 1) 今月の1枚: 「タンザニア記念植樹」
- 2) JICA in Tanzania : AICAD
「アフリカ人造り拠点プロジェクト」
- 3) クリコニ? : 9月のできごと
- 4) Shocho no Jicho : 「勝田所長 着任お祝い」

(1) 今月の5枚: 「タンザニア記念植樹」

ある式典で、タンザニア・キクウェテ大統領による記念植樹が行われました。所変われば品変わる・・・日本とはちょっと違った植樹の儀式です。

キクウェテ大統領がリボンのついたシャベルを使って土を掘り返します。お付きの人が苗木を準備しています。

大統領がお付きの人から苗木を受け取ります。

苗木を置き、再びシャベルで土をかけ埋めます。

次はジョウロで水やりです。

最後はやはり手洗いで締めます。

記念植樹、完了。

(2) JICA in Tanzania : AICAD 「アフリカ人造り拠点プロジェクト」

2000年から開始され、現在 Phase3 を実施中です。モロゴロにある「AICAD タンザニア事務所」より、村上専門家にプロジェクトの概要を書いてもらいました。

AICAD プロジェクトは日本語での名前を「アフリカ人造り拠点プロジェクト」と呼びます。タンザニアにおける活動拠点はダルエスサラームではなく西へ 200 キロ程離れたモロゴロにあり、そのせい(?) もあるのでしょうか多くの方々から「何をしている所?」という質問を良く受けます。そこで今回、簡単に AICAD の概要・活動を紹介させていただきます。

1998 年東京で開催された第 2 回アフリカ開発会議 (TICADII) で、日本政府の提言の中に「アフリカ地域の人造り拠点を設置し、アフリカの人材育成にかかる支援を行っていく」ことが含まれました。そこで日本政府はタンザニア、ケニア、及びウガンダ各国政府と共に 2000 年 8 月に大学を主たるパートナーとした地域国際機関 AICAD (African Institute for Capacity Development) を立ち上げ、本部を日本が 20 年間支援を実施していたケニア国ジョモケニヤッタ農工大学の敷地内に建設 (無償資金協力)、また各々 3 カ国に活動拠点となる Country Office (CO) を設置しました。上記の東アフリカ 3 カ国は AICAD に対して拠出金を出しています。因みにタンザニアはモロゴロにあるソコイネ農業大学構内に AICAD Tanzania Country Office があります(写真 1)。



写真 1

主な目的は“大学等の高等教育機関で培われた有用な知識・技術を利用・普及し、貧困削減に寄与する”と言うもので、AICAD はそのような機関とコミュニティを橋渡しする役割が期待されています。“高等教育機関の社会貢献活動を支援・強化し皆で幸せになりましょう”と言えるかも知れません。



活動は大きく3つに分けられます。知識・技術の利用や育成を目的とした高等教育機関への「研究開発支援」、有用な知識・技術を普及員や農民へ広めるための国内研修・セミナー等「研修・普及」の実施、これらの活動を通して得られたマニュアルなど「刊行物の出版・データベース構築」です。

各活動の具体例または内容を紹介してみたいと思います。

研究開発: 1) ダルエスサラーム大学工学部で開発している Inter-lock Brick System (相互にロックし合うブロックで接合剤が必要無)の開発、普及を支援しています。最近巷で良く見受けられるシステムですが、この研究のユニークな点はこのタイプのブロックをローカルにある土、セメント、水等と混ぜ合わせて作成出来る点にあり、また多くの異なる土壌に対応しています。このブロックの普及を促す事で接合剤、ブロック運搬費用の節約、ローカルでの雇用促進、焼きレンガを使わない事による環境への配慮等が期待できます。

2) ザンジバル農業省が行なっているネリカみの品種適性試験の支援を行なっています。本年中に品種登録が完了する予定です(写真2)。



写真2

研修・普及: 農民、起業家を対象に“農村女性”“灌漑”“起業家育成”“付加価値付与”研修を行っています。講師陣の殆どは大学教官または技官が勤め、AICAD 研修のユニ-

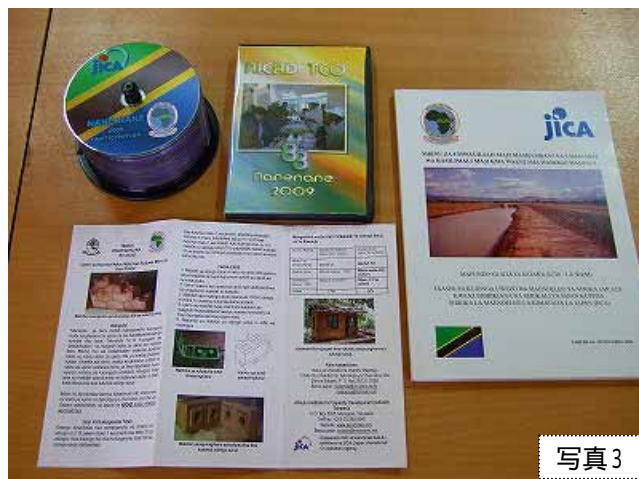


写真3

クな点の一つとなっています。この国では研修やセミナーの専門講師は少なく、関連する分野の大学関係者が関わるケースが良くあり、講師経験豊富な大学関係者が意外と多いのです。ここに大学の社会貢献機能の潜在能力の高さが伺えます。

刊行物の出版・データベース構築: これまでの研究協力者、研究レポートのアーカイブ作成、研修の紹介 DVD 及び研修マニュアルの作成を行っています(写真3)。現在、これらの活用・普及に重点を置いた活動を行なっています。

駆け足の説明になってしまいましたが AICAD の概要・活動の様子が少しはイメージし易くなったのではないのでしょうか? “いやいや、もう少し!”と言う方は村上の方まで遠慮なくご質問、ご連絡下さい。カリブ・サナです。

(AICAD 専門家 村上雅彦)



(3) く・り・こ・に? 9月のできごと

ここでは、9月の JICA の活動を紹介します。Kulikoni? とはスワヒリ語で「何があったの?」の意味です。Karibuni! (ようこそ!)



9月17日: 専門家意見交換会開催

多分野の専門家や事務所員の情報共有の場として開催され、タンザニアの JICA 関係者約40名が参加しました。農業、保健の専門家からそれぞれの活動における組織能力強化のための取り組み事例に関して発表があり、その後意見交換が行われました。

支援の対象となっている組織・個人に対して、いかに行動変容・改善を促していくかといった課題や、プロジェクトの終了後の自立発展性を確保するにはどのような取り組みが有効なのかという点に関し、具体的な現場での工夫や、挑戦の例が共有されました。

参加した専門家からは意見交換会の定期的な今後の開催を求める意見も出、一方、事務所職員にとっても現場で活躍する専門家の方のご苦勞を改めて感じる場となりました。(OJT 職員 伊藤友美)



[青年海外協力隊]

9月11日:

司書部会ワークショップ

司書隊員が配属されている

タンザニア唯一の司書専門学校にて、司書隊員3名が「図書館における児童サービス」についてのワークショップを開催しました。

タンザニアでも政府が奨励していますが図書館現場では「何をやっていいのかわからない」状況の児童サービス。隊員たちは将来の司書たちに、児童サービスの役割や重要性を講義し、日本でのサービスの例を紹介しました。



[青年海外協力隊]

9月24-25日:

エイズ対策部会勉強会

部員総勢6名が集まった今回の勉強会は、エイズ

の基本的な知識の確認から始まりました。

1日目は部員2名がファシリテーターとなり、ゲームやグループワークを取り入れたワークショップスタイルでエイズへの理解を深めました。2日目はダルエスサラーム市内の3つのVCT (Voluntary Counseling and Testing) 施設を訪問し、エイズ検査の流れや施設間のサービス提供の違いを学ぶと同時に、VCTサービスの現状・課題も肌で感じることができました。部員の全員がエイズ対策以外の職種ですが、この2日間は互いに刺激を与え合う良い機会になりました。(20-2 滝川麻衣隊員)



[州保健行政システム強化プロジェクト]

9月下旬: プロジェクトM&E セミナー実施

21州の州保健局(RHMT)メンバーとともに、ムワンザ、タンガ、ムベヤの3カ所でセミナーを開催しました。

セミナーの目的は、州保健局員に、プロジェクトを自分の物としてその進捗と結果に責任を持ってもらうことにあります。

PDM (Project Design Matrix) を用いての

プロジェクトM&Eとは、「何のために自分は何をすべきか」を実施者が考え、「現状を改善する」ためにその達成度を測ることです。

現場の専門家に求められるのは、この基本の理解をわずか2-3日のセミナーで済んだとするのではなく、手段としてPDMを使いながら、様々なボールを投げれば州保健局員からのボールを受ける、たゆまぬ努力ではないかと思っています。(総括 岡田尚美)



[HIV/AIDS 対策計画]

9月25日: 平成21年度署名式

タンザニア財務省次官と日本国大使、JICA所長が出席して署名が行われました。日本からHIV/AIDS予防と対策のためのHIV検査キットと性感染症治療薬を供与します。

署名式で中川日本国大使は、タンザニアの国の発展のために感染を減らす努力が必要で、若者へのエイズ教育・啓発が特に重要であると語りました。これらの物品の援助とともに、エイズへの活発な啓発活動が、大切な命を守っていくことを願います。

[首都圏周辺地域給水計画]

9月30日: 第1期竣工式、第2期起工式の式典

第1期にて給水施設が完成したコースト州のキバ八県ミナジキンダ・キトモンド村にて、水・灌漑大臣、在タンザニア日本国大使、JICA所長が出席して式典が開催されました。村の周辺は乾季のせいもあって乾燥した地表が広がっています。

村人の話では、以前は2-3km離れた川まで水汲みに行っており、時にはワニに襲われることもあったそうです。

現在は共同水栓が村の各地に設置され、今までのように頻繁にお腹をこわすこともなくなったそうです。

このプロジェクトによって、対象地域の6万人に新たに安全できれいな水を届けられる予定です。

式典では、大臣、日本大使、JICA所長も、お祝いをする村人たちに混じってダンスを踊りました。

多くの人の生活を改善させるこの給水施設を、自分たちでしっかり守って欲しいですね。



(4) Shocho の Jicho:
「勝田所長 着任あいさつ」



皆様こんにちは、升本所長の後任として9月3日に着任しました勝田です。

タンザニア事務所には1990年から93年まで事務所員として勤務していたことがあり、まさかの再赴任で、約16年ぶりに戻ってまいりました。当時、まだ社会主義時代の影響が色濃く残っていたダルエスサラームでの暮らしは、不便なこともありましたが、いい加減だけどやさしくて人のいいタンザニアの人たちに囲まれて、家族5人で楽しく過ごしたことがばかりが思い出されます。今のダルエスサラームは便利な大都会に発展し、JICA 事務所も大所帯になったので、昔の哀愁なんかに浸っている余裕を与えてくれないのが残念です。

これまで JICA では、農林水産業や自然環境保全分野の仕事に主に従事していました。また、タンザニア以外にジンバブエ事務所にも勤務していましたので、一応、アフリカ通ということになっています。農林水産分野での仕事やアフリカでの勤務では、自分の力だけではどうすることもできない境遇におかれている人たち、生活のために違法でも自然環境を利用せざるを得ない人たちに向き合わされるがよくあり、ひとりひとりの人間が幸せになる協力というものを特に考えるようになりました。

昨年10月の新 JICA 発足に伴ってキャッチフレーズが「よりよい明日を、世界の人々と」から「すべての人々が恩恵を受け、ダイナミックな開発」に変わり、結果に責任を持つ実施機関としての JICA を明確に打ち出したように思います。(厳密に言うと前者は「スローガン」で後者は「ビジョン」ですが、ここでは細かなことは気にしないこととします。)それから1年が経って、いよいよその成果が問われるときに私がこの地に赴任してきたこととなります。

JICA 事務所現場を預かる身として、実際に現場で活躍されている、専門家、調査団員、コンサルタンツ、コントラクター、協力隊員、そして本当の主役であるタンザニアの人たちと一緒に悩み、考え、少しでもいい協力をしていきたいと

思っています。

ちなみに、私の出身は愛知県豊田市で中日ファン、血液型はB型、家族4人を日本に残しての単身赴任、趣味はへたくそな合気道。現在、一緒に稽古をしてくれる人を探しています。

では皆様、タンザニアの人たちの未来のために、これからもよろしく願い申し上げます。

リレーエッセイ
～ Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania ～

(20 - 3次隊 柴田陽子さん)

隣の家のお手伝いさん、サウム。
彼女は私のタンザニア料理の先生。
ウガリ、マハラゲ、ダガーなどなど。

炭ジコの前で彼女と

夕飯の献立の話をするのが日課でした。
この家の夕飯はいつもワリ・マハラゲでしたが。
そんな彼女、今は別の家で働いています。
毎日は会えなくなったけど、これからも仲良くしてね。



今回は、メルー山登山2回目計画中!?!のサメのアクティブ岡さんをお願いします。

JICA タンザニア事務所: P.O.BOX 9450 Dar es Salaam
Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

パモジャ(Pamoja)編集部: 皆様からのご意見や、
Goodな情報の提供をお願いします!

adachifumiko.tz@jica.go.jp

